



田宮 五郎 (たみや ごろう)

慶応元年（1865）5月村山郡大町村（現河北町谷地）に生まれ、14歳のとき五郎を襲名して12代の家督を継ぎました。田宮家は代々村役人を務める家柄で、五郎氏もまた役場の書記等を歴任しました。田宮家では8代五右衛門が江戸表より草履表の編造法を習得してきて婦女子に伝授し、9代・10代が引き続き事業の発展に尽くしました。これを受継ぎ、当時農家の副業として行われていた「草履づくり」を、なんとか主産業に高めて地域を発展させようと鋭意努力しました。

苦勞の末、ついに明治22年（1889）、日本初の『ぞうり表圧搾機』を発明し、この機械は第三回内国勸業博覧会で名誉褒賞を受賞し、専売特許も取得しました。この機械で加工した草履表は、「つぶしぞうり」と言われ、廉価なのに「見た目が綺麗で艶があり、高価な棕櫚（しゅろ）皮や竹皮表に劣らない」と全国的に高く評価され、この地方の主産業となりました。

また、学問に対しても広い視野を求め、後に貿易商として名を成す親友の石川賢治と諮って、のちの大礼記年谷地図書館の基となった「谷地読書協会」を結成し、本県図書館運動の草分けとなりました。

明治44年（1911）、町議会で懸案の上水道設置の件が議決されると、水道委員に選出されました。早速先進地水戸市の水道視察に出向きましたが、旅館で病に倒れました。しかし小康を得るとすぐ病弱の身をおして上京し、水道工事の設計や工事の監督の招聘に尽力しました。

（写真提供：田宮印刷株式会社）